

世界遺産研修会

<担当> 県ユネスコ世界遺産委員会 <主管> 富岡ユネスコ協会

趣旨・目的

群馬県内の世界遺産や世界の記憶の保護・保全活動に限らず、県内にある身近な世界遺産(文化遺産、歴史資料、産業遺産等)にも目を向けた活動を進めていくと共に、日ユ協連が推進している「未来遺産」の考えも必要であると考えます。特に、令和元年度の研修では世界遺産登録から5年が経過した富岡製糸場に目を向け、5年間の中での新たな発見や今後の展望について、専門家による講演を通して研修し、富岡製糸場についてより理解を深める機会とします。

日時: 令和2年2月15日(土) 13:00~14:00

場所: 富岡商工会議所

住所: 富岡市富岡1121-1

<参加対象> 県内各ユネスコ協会会員、国際ソロプチミスト前橋会員、事務局員

<参加数> 60名

内容

(1) 開会行事 13:00~13:20

○開会

○ユネスコの歌斉唱

○あいさつ 群馬県ユネスコ連絡協議会会長 樋口克己

富岡ユネスコ協会会長 矢野英司

○来賓祝辞 富岡市長 榎本義法 様

富岡市議会議長 相川 求 様

富岡市教育委員会教育長 服部幸雄 様

(2) 講演会 13:20~14:30

○講師紹介

○講演 講師 富岡製糸場総合研究センター所長 結城雅則 様

演題 世界遺産登録から5年~新たな発見と今後の展望~

○質疑応答

○謝辞 世界遺産委員会副委員長 設楽孝吉

1. 富岡製糸場で何が行われてきたか
2. 基幹産業としての絹産業
3. 富岡製糸場の文化財指定
4. 世界遺産「富岡製糸場と絹遺産群」
5. 新たな発見と今後の展望

以上の項目に沿ってご講演いただき、今後の世界遺産活動に向けて多くのことを学ぶことができました。「富岡製糸場と絹産業遺産群」は、長い間生産量が限られていた生糸の大量生産を実現した「技術革新」と、世界と日本との間の「技術交流」を主題とした近代の絹産業に関する遺産であることを再認識いたしました。